

三育だより

2024年7月26日発行

2024年度第1号

学校法人三育学院 東京三育小学校

〒177-0053 練馬区関町南2-8-4

TEL 03-3920-2450

URL <https://www.tokyosaniku.ed.jp>



校訓「だから、何事でも人々からしてほしいと望むことは、人々にもそのとおりにせよ。」(口語訳聖書)

「誰かの幸せを喜ぶ」

学校長 平田 理(ひらた まこと)

1学期は予定していた教育活動を本来の規模で全て行うことができ、神様が子どもたちに恵みの雨を豊かに降り注ぎ、成長させてくださったことを感謝します。

さて、運動会の練習や運動会で聞こえてきた子どもたちの会話で、改めて運動会の功罪が隠されていると感じました。運動が得意な子どもたちにとっては、保護者、家族ばかりかお客様を前にして、最高の表現の機会となりますが、苦手な子どもたちには、自分の不甲斐なき、できないことへの負の感情に向き合わねばならない時間です。「勝ったあ〜!!」「やった〜!」「いちば〜ん!」の影では「悔しい」「あいつのせいで」「やっぱり無理だあ」がうごめきます。あきらめない気持ちや挑戦する気持ちが育つ素晴らしい機会なのですが、時には「勝敗」が「上下」や「優劣」の尺度を助長することもあります。練習では負けてきたけど、本番では「勝った」ことで「ざまあみろ」「日頃の行いのあらわれだあ」など「他人の不幸を喜ぶ」呟きが聞こえ、驚かされます。誰もが抱くこのダークな感情には、ドイツ語で「被害・損害：Schaden」と「喜び：Freude」を合わせ「Schadenfreude：シャーデンフロイデ」という心理学用語がつけられ、「他者の不幸を喜ぶ感情」として一般的にも知られています。「他人の不幸は蜜の味」と評されるほどに私たちは自分以外の不幸を、時々期待さえしているのです。

米国ジョージア州、エモリー大学の「シャーデンフロイデ」に関する研究分析によれば(心理学者 シェンシェン・ワン博士他2019)、「他者の不幸を喜ぶ：シャーデンフロイデ」は「競争・公平・攻撃」という3つの要素が相互作用することで生じ、その負の感情の根底には、他者を人間として大切に扱う態度を失わせる、「非人間化」する力があると言います。羨ましい対象の鼻がへし折られた時に嫉妬心が和らぎ、自己評価が上がる。誰かに起きた不幸は過去の悪行に対する当然の報い。スポーツ大会、議論、競争でライバルが負けた時にそれを喜ぶ。誰かを大切な存在として認めるどころか、他者を引きずり下ろし、存在を消滅させるかのような負の感情が絡み合っています。残念ながら、心の奥深くに根ざすこの感情を消滅させることは難しいかも知れませんが、この感情に支配される機会を遠ざけ、減らす努力は出来そうです。

脳科学者によれば「シャーデンフロイデ」を誘発する脳内物質は、「誰かを愛する、仲間を大切にする、安心感や幸福感を得る」時に分泌される脳内物質オキシトシンです。人の愛憎は表裏一体のごとく正負が簡単に入れ替わってしまう脆い感情のようです。

「こちよ言葉は蜂蜜のように、魂に甘く、からだを健やかにする。」

(箴言16章24節)

聖書は、いつも誰かの幸せを喜ぶことが、心身を健やかに保つ秘訣と説きます。また、『神の目に偉大な人間を造るのは小さな愛の行為、小さな親切の言葉、小さな自己否定の行為、小さな機会を賢明に生かすこと、小さな才能を勤勉に開発することにある』(1898年4月21日「Youth Instructor」)ともあります。



Tokyo San-iku Elementary School

Since 1898

東京三育小学校

校内行事報告

入学式 4月

全校児童が一堂に会して行われた第76回入学式は、まだあどけなさの残るかわいい1年生を6年生がエスコートして始められました。



これから先も神様が一人ひとりにご計画をもって働いてくださることを感謝します。子どもたちとご家庭が6年間三育で過ごせてよかったと思っただけのよう、神さまから託されたいのちを育てていただきたいと思います。



運動会 5月

保護者のみならず、祖父母、親戚、お友だち、卒業生など、たくさんの来校者をお迎えして行うことができた運動会。子どもたちは5月の連休以降、連日練習を重ね、時には涙しながらも互いに励まし合い練習の成果を存分に発揮しました。保護者の皆さまも気合いたっぷりで保護者競技、親子競技に備えてくださいました。また保護者の方々のご協力によって運動会が支えられ、系列校の三育学院中等教育学校の生徒さんたち、三育学院大学の学生さんたちもお手伝いくださり、三育スピリットあふれる運動会が開催できたことに感謝します。



祈 禱週 6月

東京衛生アドベンチスト病院 チャプレンの東 清志先生をお迎えし、「いのち」と題して祈禱週が行われました。

「私たちの罪のために十字架にかかってくださったイエス様に感謝します」「イエス様の愛に感謝します」「イエス様のようになりたいです」「先生のお話は分かりやすく聖書のことがよくわかりました」など子どもたちの心にイエス様の名が刻まれた祈禱週となりました。

お昼休みには「祈りの時間」をチャペルでもち、毎日約80名の子どもたちと先生たちがお祈りを捧げました。「どんなことがあってもイエス様がいてくれるから大丈夫」と思える人生の土台を築いてほしいです。



国際交流 6月

8年ぶりに系列校の大喃中等教育学校(香港)のマーチングバンドの生徒さんと先生など総勢25名が来校され、4曲披露してくださいました。共にお祈りし、

「主われを愛す」を広東語で一緒に賛美し、日本の文化も紹介しました。上級生の英語の授業では互いに英語で自己紹介をしたり、全学年に分かれてお弁当を一緒に食べたり、お昼休みには一緒に遊んだりしました。言葉は異なっても心は一つとなり、楽しい時間となりました



沖 縄修学旅行

「平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。」沖縄の人々が抱えている「痛み」「悲しみ」を目にし、感じ、触れることによって「神様を知っている自分たちは平和を創り出すためにどう生きるべきか」をまた深く考える時が与えられました。世界中で起こっている戦争をも思い、

これからの歩みの中でも自分に問いかけ続け、行動できる人になってほしいと思います。



多くの皆さまのお祈りのうちに、1学期を無事に終えることができました。日頃のご支援と併せまして感謝いたします。7/24～8/28は夏期休暇です。厳夏の折、気をつけてお過ごしください。